

『自然科学的世界像』序

石原 純

現時国家の重大な難局に際して国民精神の振興が頻りに称えられているのは固より当然の事態であるが、之と同時に今日の時代に於ては自然科学が国力の基礎をなす所以が一層明確に悟られねばならないし、そして之なしには国運の進展の絶対に望むことの出来ないのを思わねばならない。かくて自然科学を奨めるために、我々は先ず自然科学の普及に對してあらゆる努力を惜んではならないのである。

だが、自然科学の普及なるものは、決して単に断片的な科学的知識を授け、若くは幾つかの科学的法則を暗記せしめる如きことによつて結果するのではない。自然科学のいかなるものであるかを真に理解し、すべての事象に對して科学的に思考することを可能ならしめることが必要なのである。しかも之がためには自然科学の本質に通ずると共に、自然科学の与えるところの認識がどんなものであるかを根本的に理解しなくてはならない。ところが、今日の我が国の科学教育に於ては自然科学を教えると称しながら、実はその教課に於て上述の意味を殆んど見遁がし、全くその末梢に終始している観がある。これ多くの人々が自然科学を学びながら、併し科学的に思考することを少しも会得せず、に過ぎしてしまふ所以でなければならぬ。そして自然科学の真の普及が依然として到達せられずにいるのは、我々の最も遺憾とする処である。

本書に収めるところの諸篇は、何れも自然科学の根本的な問題に触れるものであって、之等を通じて科学的認識のいかなるものであるかを多少とも明らかにするのに役立つであろうと考えられるが、固より系統立つて記したものであるから、前後重複する点も多いのは止むを得ない。併しそれも種々の観点から、若くは幾度も繰返して同じ問題に接することによつて、却つて読者の理解を容易ならしめる処もないとは云われないので、今はその儘ままにしておく。

内容の種類に依じて、三部に分つたが、之は便宜に従つた迄で、必ずしも厳格な意味での区分ではない。ただ全体を通じて今日の自然科学が到達せる知識に基づいて、そこにどんな自然科学的世界像が描き出されるかを幾分でも明らかにし、且つ科学的認識の本質を会得えとくせしめ得れば足りると思う。かくて本書が、たとえその説明に於て甚だ不備であるとは云え、また自然科学の、殊ことに科学的思考の普及の一端として資し得るならば、著者の望みは之に若しかない。

昭和十三年二月

石原 純

-
- 『自然科学的世界像』（岩波書店 一九四〇年二月、第四刷）所収。
 - PDF化するにあたり、旧仮名遣いは新仮名遣いに改めた。
 - 旧漢字は新漢字に改めた。
 - 読みやすさのために、適宜振り仮名をつけた。
 - PDF化には`LATEX2ε`でタイプセッティングを行い、`dvipdfmx`を使用した。

科学の古典文献の電子図書館「科学図書館」

<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/munehiro/sciencelib.html>

「科学図書館」に新しく収録した文献の案内、その他「科学図書館」に関する意見などは、「科学図書館掲示板」

<http://6325.teacup.com/munehiroumeda/bbs>

を御覧いただくか、書き込みください。